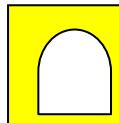


日吉台地下壕保存の会会報



第116号
日吉台地下壕保存の会

2014年度総会終了 見学会再開

そして 戦争遺跡保存全国シンポジウムに向けて

2014年度第26回日吉台地下壕保存の会総会・講演会が6月7日に慶應大学日吉来往舎で行われました。記念講演は上山和雄氏による「近代都市の形成と軍隊－横浜・横須賀を中心に－」というテーマで横浜と戦争と関連、戦跡保存運動のお話をされました。総会では活動方針で活発な前向きの意見が述べられました。承認された内容は会報(3~7p)をお読みください。



8月16日(土)～18日(月)に第18回戦争遺跡保存全国シンポジウムが明治大学生田校舎で開かれます。前中国大使の丹羽宇一郎氏による記念講演も予定されています。東アジアの緊張した情勢を実際に現場を知る方から貴重なお話が聞けると思います。その他に各地からの戦跡保存運動の現状報告など、18日(月)はフィールドワークが5コース予定しています。一緒に勉強をしましょう。

2月末より中止されていた地下壕内見学が7月から再開されました。中止の間は地上部分の見学ガイドをしてきました。

今回は慶應義塾が超音波などを使った非破壊検査で地下壕内の劣化調査をしました。その結果、1か所コンクリートと地層の間に隙間が見つかり、その場所は通行禁止になりましたが、その他は非鉄筋ですがコンクリート強度は現在の建築基準と比べても十分に合格する値を示しました。

その結果、7月より地下壕内見学の許可がおりました。約4ヶ月間中止したために希望者が殺到していることもあり、夏休みに見学会を開催予定です(16p参照)。

目 次	
卷頭言	1p
お知らせ 第18回戦争遺跡保存全国ネットシンポジウム	
神奈川県川崎大会の開催	2p
報告 第26回日吉台地下壕保存の会総会・記念講演	3~7p
2013年度活動報告・人事・2014年度活動方針	
2013年決算報告・監査結果・2014年度予算	
「記念講演上山和雄氏」報告 (小山信雄)	
報告 第8期ガイド養成講座 (喜田美登里)	7~8p
寄稿 ガイド養成講座を受講して(上野美代子・岡本秀樹)	8~9p
報告 応援事業「チャレンジコース」結果報告(小山信雄)	9p
資料 栗原啓二氏の聞き取り調査 その2 (山田譲)	10~12p
連載 ガイドから一言「豊田市下山中学校を迎えて」(長谷川崇)	12p
連載 日吉第一校舎ノート(4)「田園家塾」(阿久沢武史)	13~15p
連載 地下壕設備アレコレ【その11】(山田譲)	15p
活動の記録	16p

第18回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県川崎大会

今こそ戦争遺跡を平和のための文化財に！

【日時】2014年8月16日(土)～18日(月)

【会場】明治大学生田キャンパス中央校舎（〒214-8571 川崎市多摩区三田1-1-1）
小田急線向ヶ丘遊園駅からバス20分、生田駅から徒歩15分

【主催】戦争遺跡保存全国ネットワーク

第18回戦争遺跡保存全国シンポジウム神奈川県川崎大会実行委員会

【共催】明治大学平和教育登戸研究所資料館

【後援】神奈川県・神奈川県教育委員会・川崎市・川崎市教育委員会・

読売新聞川崎支局・朝日新聞川崎支局・毎日新聞川崎支局・東京新聞川崎支局
神奈川新聞・タウンニュース・多摩区観光協会・稻田郷土史会

【日程】

○8月16日(土) 13:00～ (開場12:30)

開会セレモニー・文化行事

13:40 【記念講演】「アジアの平和と日中関係のこれから」

丹羽宇一郎氏（前中国大使 前伊藤忠会長）

15:00～ 基調提案 地域報告

18:00～ 全国交流集会（柏屋）、歓迎行事

○8月17日(日) 9:15～分科会（中央校舎）

第一分科会「保存運動の現状と課題」

第二分科会「調査の方法と整備技術」

第三分科会「平和博物館と次世代への継承」

《参加費》一般 2000円（一日参加は1000円）大学(院)生 1000円 高校生以下無料

☆現地見学（フィールドワーク）

A 陸軍登戸研究所（参加費無料）

8月16日(土)午前10時 明治大学平和教育登戸研究所資料館集合（12時終了）

B 海軍連合艦隊司令部地下壕（日吉台地下壕）（参加費800円）

8月18日(月) 東急東横線日吉駅改札口 (1)午前9時 (2)午後1時集合

C 陸軍歩兵101連隊(東部62部隊)と溝の口演習場のあとを探る（参加費4000円バス代込）

8月18日9時30分 東急田園都市線宮崎台駅改札口集合

D 東京大空襲と第五福竜丸事件を考える（参加費6500円 バス代、弁当代込）

8月18日午前9時東京駅鍛冶橋駐車場集合 16時30分終了

E 東京多摩地域の戦争遺跡（調布飛行場、日立航空機立川工場変電所など）を探る

（参加費バス代4000円食事代別）

8月18日午前9時30分 三鷹駅北口集合 16時立川駅解散

〈注意〉CDEのコースは7月末までにお申し込みください。先着25名締め切り

◆登戸研究所保存の会、日吉台地下壕保存の会のホームページからもダウンロードできます。

☆〈写真展示〉 平和のための戦争遺跡の保存を求めて

会場：明治大学平和教育登戸研究所資料館

期間：7月16日～10月25日まで

報告**第26回日吉台地下壕保存の会講演会・総会****★2013年度活動報告**

昨年の定期総会で報告された、航空本部等地下壕出入口の宅地開発工事は2013年8月に終了と業者から近隣住民に通知があった。開発工事で地下壕の出入口・沈殿槽が破壊され、擁壁・取付道路が造られて、地下壕Bブロック東側のほとんどが埋もれてしまった。住宅建設の準備は整ったように見えるが、2014年6月現在、住宅建設工事は始まっていない。

昨年3月20日に開発工事計画を知つてから保存の会にとって多忙な1年間が経過した。1年間の沖縄留学から帰つたばかりの大西会長や地元の長谷川運営委員を中心に現場監視に通い、大西会長のメール「今日の出来事」は運営委員に毎日送信された。新聞・テレビなどメディアの反応も大きく、「日吉台地下壕開発で破壊」「負の遺産 文化財指定なく」「地域行政が保存に動け」など、報道された。

保存の会は5月1日、文化庁長官・神奈川県教育委員会教育長・横浜市教育委員会教育長に「日吉台航空本部等地下壕の保存に関する要望書」を提出し、遺跡破壊の中止と文化財指定を要望した。提出に際しては、新井副会長はじめ運営委員2名が、神奈川県教育委員会と横浜市教育委員会の各担当者と面会し、意見交換をおこなつた。また、戦争遺跡保存全国ネットワーク、慶應義塾もそれぞれ同様の要望書を提出した。5月28日の保存の会への回答は「現時点での保全は困難。埋蔵文化財包蔵地への登録を進めたい」であった。「日吉5丁目の緑と住環境を守る会」も横浜市教育委員会文化財課に要望書を提出。保存の会も署名活動に協力し、保存の会会員から多数の署名が寄せられた。6月19日に第1次署名822筆、12月25日の第4次までに計1358筆を提出した。保存の会も守る会も現地に開発反対・文化財保存を求める立て看板を設置した。

6月6日 横浜市文化財審議会が日吉台地下壕を「周知の埋蔵文化財包蔵地」にリストアップを決定、県の審議へ。10月8日に埋蔵文化財包蔵地として、「横浜市文化財地図」に記載された。

今回の開発工事で地下壕出入口は破壊されたが、保存運動を続けるために学んだ事も多かった。安藤広道文学部教授の調査での新しい発見も沢山あった。2002年に棚上げになっていた開発について、行政だけでなく保存の会も取り組みの継続ができていなかった。地下壕が大学以外の民有地を含んでいる以上、開発・破壊には常に直面している。文化財指定をすすめるためには、地域の声が大切である。この開発工事で、地域の戦争遺跡への関心・認知度が高くなっているのは実感した。

5月26日・30日～6月2日「第18回平和のための戦争展inよこはま」に展示で参加。6月2日の「報告と映像 米軍機墜落事件～沖縄・横浜...」で大西会長が2004年の沖縄国際大学キャンパス米軍ヘリ墜落炎上事故と新型輸送機MV22オスプレイ配備について報告し、「報告と映像」については神奈川新聞等に掲載された。

6月1日に行われた定期総会では宅地開発工事の現状が報告され、記念講演は「沖縄で見たこと、考えたこと～琉球大学に1年間留学して～」の演題で大西会長が1年間沖縄で集めた資料をもとに行った。

8月3～7日まで行った夏休みの見学会では大人以外に小・中・高・大学生約150名の参加があった。

8月17～19日第17回戦争遺跡保存全国シンポジウム岡山県倉敷大会が倉敷市水島愛あいサロン環境交流スクエアで、「戦争遺跡の大切さを地域・日本・世界から考える」の大会テーマのもと開催された。記念講演はドイツ中部ノルトハウゼンにあるミッテルバウ＝ドーラ強制収容所記念館のヴァーグナー館長によるもので、ドイツにおける戦争遺跡保存のひとつ的方法が話された。第1分科会で大西会長が「日吉台地下壕群を国の文化財に～航空本部等出入口の破壊～」で3月からの保存の会の活動を報告。第3分科会では「ガイド養成講座の再出発 講座の再検討と定着まで」として、この間工夫してきたガイド養成講座について石橋・山田運

當委員が発表した。亀島山地下工場跡を中心とした現地見学会が行われた。

10月12・13日、日吉キャンパス来往舎で「第21回横浜・川崎平和のための戦争展」開催。本年のテーマは「日吉台地下壕・登戸研究所を国の登録文化財に」とし、どのようにすれば戦跡を破壊から守り、活用するための方策を見つけることができるのか、という視点で取り組み、川崎市中原区に接続する日吉の空襲地図は、参加者の関心を集めた。

10月26日の定例見学会を強力な台風直撃の予報により中止した。天気予報で見学会を中止したのは今回が初めてであった。当日、中止の連絡が取れなかつた1名を案内した。

第7期日吉の戦争遺跡ガイド養成講座7月13日終了。修了者3名は現在ガイドとして活動している。

11月9日日吉エイジ主催の「日吉フェスタ」では毎年の展示に加えて「ぶらへりキャンパスウォーク」として日吉キャンパス散策ガイドを2回実施し、参加者は少なかつたが面白い企画と好評であった。

1月18日から第8期日吉の戦争遺跡ガイド養成講座を応募者8名で開始した。第2回目の2月8日は大雪の予報のため中止した。講座の終了が一月遅れて6月14日となる。現在、地下壕のガイドは15名ほどだが平日に活動できる人は少なく、年間50回程の見学会を維持するのも難しい状態だが見学希望者は増加しており、ガイド養成が急務である。

ガイド学習会は2か月に1回、見学会の日程などの調整・ガイド方法の検討などを続けている。体験者の聞き取り調査のためにICレコーダーを会で購入し、貴重な証言の記録に努める事になった。聞き取りテープの書き起こし作業も始めている。

2月22日、定例見学会で地下壕通信室の天井からモルタルの小片が落下しているのをガイドが発見し、慶應義塾が調査に入った。以後、調査・修理など安全点検終了まで地下壕入坑は中止となっている。保存の会は見学希望者に事情を説明して地上部のみの見学会を数回行っているが、4、5月の定例見学会は中止とした。予約申込み者約60名が入坑の再開を待っている。7月からの見学会再開については未定。

日吉台地下壕の紹介記事等 2013.5~2014.4

- 5/1 朝日新聞 神奈川新聞 ・ 5/5 TBS 噂の東京マガジン・
- 5/8 読売新聞・神奈川新聞 ・ 5/9 赤旗・タウンニュース ・ 5/26 読売新聞 ・
- 7月 「明日へ」2013vol. 48 「横浜丘の手 ぐるっと」夏号 ・ 8/7 読売新聞
- 8/18 BS11「今も残る大日本帝国の遺跡」 ・ 11/25 ジャパンタイムス ・
- 12/6 読売新聞 ・ 2/7 産経新聞 ・ 4/4 琉球朝日放送の取材(沖縄で放映)

日吉台地下壕保存の会

- ◆会員数：個人336名 交換・寄贈団体65団体
- ◆定期総会開催：第25回 2013年6月1日
- ◆運営委員会開催：5月～4月 12回
- ◆会報発行：5回 110号(6/1) 111号(7/4) 112号(9/20) 113号(12/3) 114号(2/12)
- ◆地下壕見学会：2013.5～2014.4 57回 2,121名
- ◆地下壕ガイド学習会：2013.5～2014.4 6回
- ◆5.26・30～6.2 「第18回平和のための戦争展 in よこはま」参加
- ◆6.10 日吉地区センター自主事業「わが町再発見 日吉の空襲と日吉台地下壕」
- ◆8.17～19 戦争遺跡保存全国シンポジウム岡山県倉敷大会運営委員10名参加
- ◆10.12・13 第21回横浜・川崎平和のための戦争展 開催
- ◆11.9 日吉フェスタ(日吉エイジ主催) 参加
- ◆3.29 第9回日吉台地下壕保存の会公開講座『世界の平和思想と日本の現状』～特定秘密保護法、憲法9条などをめぐって～ 講師：藤森研氏
- ◆4.19 港北区地域のチカラ応援事業プレゼンテーション

◆第7期日吉の戦争遺跡ガイド養成講座 2013.5.11・6.8・7.13（修了者3名）

◆第8期日吉の戦争遺跡ガイド養成講座 2014.1.18・3.8・4.12・5.17 (6.14 終了予定)

★運営委員・会長・副会長・会計監査・顧問(案)

会長 大西章

副会長 新井揆博 亀岡敦子 鈴木順二 長谷川崇

運営委員 阿久沢武史 石橋星志 岩崎昭司 上野美代子 遠藤美幸 岡上そう
喜田美登里 小山信雄 桜井準也 佐藤宗達 杉山誠 鈴木清俊
谷藤基夫 常盤義和 中沢正子 古川晴彦 宮本順子 茂呂秀宏
山田譲 山田淑子 渡辺清

会計監査 熊谷紀子 山口園子

顧問 鮫島 重俊 白井 厚 東郷 秀光

★2014年度活動方針(案)

日吉台地下壕保存の会が発足して25年、四半世紀が経過しました。この間、保存の会会員の方々を中心に、日吉地域の住民の方々、全国戦争遺跡保存運動に携わっている方々と一緒に活動を続けてきました。当初、長靴で泥まみれになりながら、土砂が堆積した地下壕見学から始まり、現在はその土砂が取り除かれ、子どもから年配者まで幅広い方々の見学が可能になりました。毎年、約2000名の方を案内し、地下壕の中から平和を考える活動をしています。

しかし、昨年4月に航空本部等地下壕東側出入口の1つが壊されました。秋に横浜市は『周知の埋蔵文化財包蔵地』に指定をしましたが、工事を中止することは出来ず、これから他の地下壕出入口が破壊される可能性があります。

最近「積極的平和主義」や集団的自衛権などの議論が盛んに行われ、子どもたちを戦争が行われている地域に送ることも可能になろうとしています。この議論で抜け落ちているところは、戦争の実体を加害者や被害者の立場で現実的に考えておらず、自分自身の問題であるとの認識があまりないところです。一度戦争をする方向に向かうと、戦争を止めることが困難なことは歴史が教えてくれます。大切なことは戦争を如何にやらずに、平和的に問題を解決していく努力を不斷に続けていくことだと思います。

この地下壕は戦争の実体を語り、伝えることのできる数少ない戦争遺跡の一つです。地下壕内でもう一度戦争や平和を考え続けたいと思います。

このように平和な社会を如何につくり、継続していくことを考え、活動していく場として皆さんと一緒に地下壕保存の活動を行っていくつもりです。

これからもこの運動を継続、発展するように以下の活動方針を提案します。

活動方針

- 文化財指定の早期実現を文化庁・神奈川県・横浜市に働きかけ、地下壕を保存する。
- 慶應義塾・横浜市・県・国への働きかけを港北区住民の方を始めとする地域の方々と連帯して行う。
- 日吉台地下壕見学会の内容を充実させる。
- 小・中・高校生のための見学会を開催していく。
- 『ガイド養成講座』を充実させ、ガイドの輪を広げていく。
- 全国の戦争遺跡保存運動の会との連携を深め、保存運動を盛り上げていく。
- 『日吉平和ミュージアム』の建設に向けて努力する。
- 日吉台地下壕の学術調査・研究及び学習会を開催する。
- 運営委員会の活動の充実と拡大強化をはかる。
- 年間活動計画を決めて計画的に活動を進める。

★2013年度決算報告及び2014年度予算

2013年度 決算報告			(単位 円)
費目	2013年度予算	2013年度決算	備考
【収入の部】			
会 費	300,000	301,480	231名
見学会資料代	450,000	597,660	内訳別項
図書等頒布	0	138,480	
寄付金等	0	110,000	
縁 越 金	199,355	199,355	
計	949,355	1,346,975	
【支出の部】			
運 営 費	100,000	156,012	各種会合・打合せ等
事 務 費	120,000	172,127	事務用品費等
印 刷 費	70,000	71,395	会報・資料等
通 信 費	200,000	211,700	会報郵送費等
図書資料費	100,000	238,640	参考書籍70,640円 売り書籍168,000円
交流・交通費	100,000	128,670	全国集会・各平和展賛助金等
謝 礼	50,000	44,762	講演・学習・調査等
冊子作成費	0	0	
予 備 費	209,355		
計	949,355	1,023,306	
差引残高		323,669	
見学会開催費用内訳			
収入の部		支出の部	
見学会費用	1,008,220	保険料	186,150
		振込手数料	2,310
		案内経費	222,100
		※資料作成費	597,660
合計	1,008,220	合計	1,008,220

※資料作成費は2013年度決算の見学会資料代に計上しています

以上の通り報告します

2014年5月30日 日吉台地下壕保存の会
会 計 亀岡 敦子
この報告により收支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。
会計監査 熊谷 紀子
会計監査 山口 圓子

2014年度 予算(案)			(単位 円)
費目	2014年度予算	備考	
【収入の部】			
会 費	310,000		
見学会資料代	400,000		
図書等頒布	0		
寄付金等	0		
縁 越 金	323,669		
合 計	1,033,669		
【支出の部】			
運 営 費	100,000	各種会合・打合せ等	
事 務 費	120,000	事務用品費等	
印 刷 費	70,000	会報・資料等	
通 信 費	200,000	会報郵送費等	
図書資料費	150,000	書籍・資料等	
交流・交通費	80,000	全国集会・各平和展賛助金等	
謝 礼	50,000	講演・学習・調査等	
冊子作成費	200,000	5000冊(内2500冊分)	
予 備 費	63,669		
合 計	1,033,669		

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました

2014年6月7日

日吉台地下壕保存の会

運営委員会

★記念講演「近代都市の形成と軍隊ー横浜・横須賀を中心にー」を聞いて

小山信雄（運営委員）

国学院大学教授、並びに横浜市文化財保護審議会委員、横浜開港資料館館長の他、多方面でご活躍中の上山和雄先生を講師にお招きし、掲題の記念講演をして頂きました。明治以降の日本の近代史・現代史が御専門という立場から、今回、サブタイトルでもある「横浜や横須賀などの町の成り立ちと軍隊や基地の関係」ということに絞った、私達にとって大変身近で興味深いお話を聴く事が出来ました。

I. はじめに

- 上山先生の御専門は、「蚕糸業」「貿易史」「商社史」「地域史（神奈川県：茅ヶ崎、藤沢、横浜 千葉県：習志野、柏、野田）。

★「地域の興味深い歴史の積み重ねの上に現在がある」という興味深さ、大切さの発見。

★「自分の幸福は先人の努力と犠牲による、不幸の種は先人の失敗と悪意によって強いられたもの・・・⇒良いことも悪いことも全て我々は背負っている⇒父母・祖父母の時代の歴史を綿密に学ぶことが如何に大切であるか・・・」浅田次郎（概略）

- 研究会：「首都圏形成史研究会」「渋谷学研究会」「軍港都市史研究会」「柏歴史クラブ」委員：「教科用図書検定審議会委員」「横浜市文化財保護審議会委員」

★「領土問題」は教科書に書くべきではない。政治がやるべき問題である。

II. 横浜市の近代遺跡と戦争遺跡

- 「横浜市近代遺跡及び建造物の保護に関する要綱＝近代遺跡リスト作成(H21)」について。
- 「日吉台地下壕破壊の報道(H25.4)」～「審議会での新たな近代遺跡の埋蔵文化財包蔵地について(H25.6)」～「日吉台地下壕の登録について」(H25.10)～「市教育委員会が周知の埋蔵文化財包蔵地として決めた(H26.5)」。

★「国がお墨付きを出さないと市は動けない><市が動かないと国は進められない」



上山和雄氏

- ★地下壕を初めて見学し「本当に本土決戦をやるつもりだったのだ」と感じた。
- ・「米軍基地」の存在の大きさについて
- ★横浜米軍基地に囲まれた根岸住宅の住民が「生活に制約」で横浜地裁に提訴(H26.2)。
 - 住民でも「顔写真入り通行証」提示要。来客は「パスポート」必要。
- ★「深谷、上瀬谷の米軍通信施設が今年6月返還へ」「逗子池子米軍住宅の建設戸数半減へ(H26.3)」⇒日本全国の広大なエリアに「米軍通信施設」は残されたまま。
- ★米国オークションで入手した「元B29搭乗員故マーティン中尉の神奈川区の空爆空撮写真など」が公開された(H26.5)。⇒米軍の空爆作戦計画書には横浜5箇所が明記。
- ★「米軍女性下士官が撮した占領下の横浜」メアリー・ルージュ写真コレクション。

III. 横浜の軍隊

- ・軍隊の役割の分散化：明治9年、横浜に東海鎮守府⇒昭和17年、横須賀に移転。
明治40年、横浜連隊区の廃止⇒甲府へ移転。

IV. 軍港都市横須賀の形成

- ・1865年、製鉄所建設決定⇒1904年、横須賀海軍工廠へ（造船、造機、造兵）⇒1916年、横須賀海軍航空隊（海軍航空技術廠）⇒戦時期（1941～1945）に拡大（久里浜地区、武山地区、海岸全域）⇒戦後（1945～）平和産業都市目ざして（米軍自動車修理業、朝鮮戦争⇒工場・大学の誘致⇒日産、富士自動車、関東自動車・・）

V. 横浜の建設

- ・開国、開港⇒大震災⇒戦災⇒首都圈整備⇒六大事業（1965年、飛鳥田市長の提案：
 ①みなとみらい21 ②金沢沖埋め立て ③港北ニュータウン ④高速道路
 ⑤地下鉄整備 ⑥ベイブリッジ）

感想

- ・限られた時間の中で大変中身の濃い講演でした。何れも興味深い話題でしたが、次回はテーマを絞った講演の実現を期待します。講演後のお時間の中での「文化財指定を如何に進められるか？」の質疑応答にて、「現場の意見が最も重要、横浜市のみならず港北区との関係を如何に築いてゆくか。所有者（慶應義塾）の意向の重要性」ということを強く認識することが出来ました。

6名の方が修了。新しい仲間になりました

報告 第8期日吉の戦争遺跡ガイド養成講座修了

喜田美登里(運営委員)

第8期ガイド養成講座は1月18日に開講、6月までに来往舎会議室での座学と日吉台地下壕周辺のフィールドワーク、定例見学会でのサボート実習、計9回を行いました。6月14日には「小中高生向けのガイドの実際」とフリーティスカッションを行い、6名の受講者に修了証書をお渡して講座を終了しました。養成講座で使用した資料などは会報に掲載していく予定です。

今回の講座では第2回目の2月8日が大雪のため中止になり、2月22日の定例見学会で暗号室天井から壁の小片が落ちていた事から慶應義塾が安全点検の調査を行うために6月まで地下壕に入坑できないなど、想定外の事もありました。3月からの見学会は地上部の見学を工夫して行っています。

毎回行う日吉台地下壕周辺のフィールドワークは、いつも生憎の雨でしたが、4月12日のフィールドワークは好天に恵まれ、11名の参加者で桜が満開の日吉の丘を歩きました。

- ① 艦政本部地下壕東側の出入口周辺の竹林 水槽が残っている タケノコ掘りをしていた持主の方から海軍が去った後、土地を苦労して元にもどしたお話を聞いた。



②1945年4月の空襲で焼失した大聖院。境内に4本の戦災樹木がある。
この日は12年に1度の午年、觀音様の御開帳で賑わっていた。



③日吉の丘公園下 丘の上
は桜が満開で丘の下に 2.4
kmの地下壕が拡がる。東横線
をはさんで日吉キャンパスの丘
が見える。



④艦政本部地下壕は 2005 年横浜
市が出入口を封鎖した。西側の出
入口の一つ



⑤2013 年に住宅開発で破壊された航
空本部等出入口。整備はされたが、住
宅建設は始まっていない。



⑥人事局地下壕出入口の 1 つ。
4 月はまだ草が伸びていないの
でよく見えた。



◎2014ガイド養成講座を受講して

上野美代子さん

私は、保存の会の会員歴は長いのですが、特に何もしていませんでした。15年前、湾岸戦争の時に、テレビの映像を見た学生が、アメリカはかっこいいと言ってきたので、どんな戦争でもしてはならないこと、命は大切であることを、話したのですが、うまく伝えることができないもどかしさを感じていました。最近、社会情勢が危ないと感じています。退職し、保存の会の方たちとお会いするようになり、日本軍が作った施設を保存していく中で平和を語

ることの大切さが少しづかってきましたような気がしてきたと同時に自分の不勉強を感じるようになってきました。

そんな時に、ガイド養成講座が開かれると聞いて参加を決めました。開講時に、保存の会の大西会長から、自分のできることをやれば良いとのお話があり、私にもできるかなとちょっと安心しました。フィールドワークでは、日吉の町を散策し、身近なところに戦争があったことを感じることができました。また体験者のお話を聞いたり、先輩ガイドのお話を聞いたりすると、知識の深さや探究心の素晴らしさを感じています。

6月14日にガイド養成講座は、修了しました。これからがスタートです。養成講座でいただいた、資料を読み直し、平和の大切さを自分の言葉で、伝えられるようになりたいと思っています。



上野美代子さん

◎第8期 ガイド養成講座を受講して

岡本秀樹さん

1月18日から始まった養成講座が6月14日に区切りをむかえ、終了証書を頂きました。

無我夢中の半年、現場での実体験を経ながらの研修でしたが研修の為にご準備いただいた資料の数々、保存会の皆様のガイド養成に対する熱意に感謝の気持ちで一杯です。今まで気にもかけなかった日吉の戦争遺跡、今回の機会でそこに無言で存在し続ける圧倒的パワーに驚かされる日々です。

保存会の皆様の向き合う姿勢に大いに感化されながら語り継ぐ責任の重さを徐々にですが 理解できるようになってきたようです。知つてみれば見るほど、時代に翻弄され歴史をくぐってきた遺跡から何を学び何を感じ、それをどう伝えるか …… 実に大きな課題ですまだまだ駆け出しです、今後共一層のご指導を宜しくお願ひします。



岡本秀樹さん

最後に今の心境半藤一利著「昭和史」巻末の言葉を添えさせていただきます

「歴史とは なんと多くの教訓を私たちに与えてくれるかがわかります。しかしながら、しっかりと見なければそれは決して見えません。歴史は決して学ばなければ 何も教えてくれない」

報告

応援事業「チャレンジコース」結果報告

小山信雄（運営委員）

平成26年度の港北区地域のチカラ応援事業「チャレンジコース」に、事業名「日吉台地下壕見学会のガイド養成（人材育成）」の応募を行い、5月に補助金交付決定通知を頂きました。私たちの会は、今年で設立から25年目を迎え、見学者も昨年末迄に25,300名を数えます。特に2001年の地下壕内部の整備が整って以降、見学者は増えて行き、2009年には3,000名近くまでとなりましたが、見学者に対応出来るガイドの人数不足により、2010年以降は2,000名以上の見学者を呼ぶことが難しくなりました。特に、2013年春に発生した「地下壕の一部破壊」による関心の高まりで見学希望者が増加傾向となっているため、新しいガイドの養成は喫緊の課題です。今年度以降も、毎年ガイド養成講座を開催し、ガイドの人数を増やし、見学会の回数・見学者を増やし、同時にガイドの質の向上を図って、日吉台地下壕を一人でも多くの人に知つてもらえるよう努力します。今回の決定をより一層の励みとして、私たちは、これからも港北区の地域の歴史の学び場として、港北区のみなさまをはじめ、沢山の方々への広報に努め、地道に活動を継続して行きます。

資料 栗原啓二氏（連合艦隊司令部元暗号兵）のお話（その2）会報115号続編

(文責山田譲)

《制裁》

山田(以下Y): 紙料は幾らだったんですか?

栗原(以下K): 紙料は30円ぐらい。そんなに安くはなかったですね。僕が通信学校にいたときに、6月ごろですかね。ボーナスもらいました。兵隊もボーナスもらえるのかなと思って。終戦のときに300円ぐらいお金を持ってた。あまり使うところがなかったんで。

Y: あと、海軍は制裁が付きものというんで、ちょっと写真を見てもらうと、海軍の軍人精神注入棒っていう写真がありますね。これは自衛隊の久里浜に通信隊がありまして、そこに歴史館という資料館があります。そこで写してきたものですけれど。これは樅の棒です。使い方を教えてください。

K: 使い方ですね。こういうふうにやって・・・。

長谷川 お尻を出すんだね。

K: 打つんです。お尻をぶったたく。それも何発もやられるときがあるんです。痛いですよ、それは。力いっぱいやられるんだから。海軍独特ですね。たたくほうは下士官ということはない。兵長がたたく。

Y: あと、よく聞くのは欠礼っていいますけれど、上官、将校に対して敬礼をし損なうと、げんこつで5発殴られる、殴らなきゃいけないという決まりがあったとかね。

K: 海軍は朝、軍艦旗掲揚って、あるんです。軍艦旗が掲がると、その間は敬礼しなくていいんです。いちいち敬礼したんじゃ仕事にならない。暗号室の中では敬礼しない、全然。敬礼しなきゃいけないときは外出のときとか。軍艦になると、陸上でも軍艦の勤務と同じようにやってるわけですけど、朝の9時なら9時、8時なら8時のとき、朝礼があって、それ以後は敬礼しなくてもいいんです。いちいち軍艦の狭いところで敬礼したんじゃどうにもならないっていうわけです。陸上でも艦隊勤務にならってやってますから。



栗原啓二氏

《螢光灯、水洗洋式トイレ、外の階段》

Y: 軍艦には乗ってないわけですよね。

K: そうですね。大淀に乗るって命令が下ったその日にここへ来ちゃったから。大淀乗り組みって言われてたんですけど、木更津沖に停泊してるから木更津行けって言われたんですけど、いざ出発するときに、給料、運賃なんか、旅費なんかもらって、いざ出発になったらちょっと待て。日吉だといって、それで日吉行ったんです。

Y: 最初から先ほどの暗号室に行って、そのときは出来上がってましたか？

K: 出来上がってんです。中はきれいだったです。

Y: 中には螢光灯があったと言いますが。

K: 螢光灯です、全部。

Y: そうすると、暗号室、電信室、作戦室、あと廊下のトンネルの中も。13A、14Aの出入口のところまでも螢光灯ですね。

K: そうです。

Y: 作戦室とか長官室も見られましたか？

K: 廊下のすぐのところにあるから、いつもそばを通ってたんですけど、全然使った形跡がなかったです

Y: この地図だと、栗原さんはいつも13A、14Aの出入り口を使っていた。

K: そうです。

Y: 16Aっていうのは、電信兵が主に使うところなんですか？

K: そうだったと思います。

Y: バッテリー室って見覚えあります？

K: バッテリー室・・・ないんです。

Y: 階段は覚えてらっしゃる？

K: ええ、階段はときどきこう上がったり下りたりしてましたから。

Y: ここに、15Aってところには、トイレがあるんですが、これはご存じですか。

K: こっちは利用してなかったから。この外にあったんです、トイレが。

Y: 13A の外ですね。

K: ここは水洗のトイレがありました。13A と 14A の間辺、13A の出た辺り。それが水洗なんです。洋式の。そういうのを使つたことないから、どうやって使うんだろうって。腰掛けるやつです。腰掛けるのだけしかないです。便器の数は確か二つだったと思います。

Y: そうすると、13A とか 14A の出口を出て丘の上に上がる位置っていうのは、13A を出て、左のほうに・・・。

K: すぐ左のほうに上に出る。まっすぐな階段。階段といつても土を、丸太を土留めにして。雪の日はぬかっしゃって。その取り次ぎの兵隊、電報配達する人が、いちいち上ったり下りたりするの大変だというんで、この脇にワイヤーを、やぐらを組んで、ワイヤーを何本も・・・、箱に入れて・・・合図して・・・。ワイヤーで引っ張って。それを上で待ってた兵隊が寄宿舎まで。高さは 30 メートルくらいの高さがありますね。結構あったんです。だから大変だというんで。

安藤 今栗原さんがお話しいただいているのが、このフィールドワークの地図でいくと、13A と書いてあるのと、12A と書いている間の辺りに、土に丸太で土留めをした階段があったと。で、それがちょうどその 12 と 13 の間ぐらいの所を、寄宿舎のある台地のほうに、ほぼ一線に上がっていったような。で、その階段と 13A との間ぐらいの所に洋式の水洗トイレが二つあったというふうに、今お話をいただきました。

Y: トイレの建物はどういうものですか。屋根はあるんでしょ？ バラック？

K: ええ、バラックみたいです。木造の。

《通信学校の新兵教育》

Y: あと新兵教育のことを聞きたいんですけど。

K: 防府通信学校は生徒と教員で 2000 人ぐらいいたんです。だから食事やなんか一遍にできないというんで二部制にして、朝 5 時ごろまで起こされちゃって、校庭で体操をするんですけど、校庭を駆け足で 2 周ぐらいするんです。その校庭が広いんです。昔の塩田をつぶして、それ校庭にしてあるんですけど。そこんところを駆け足でトットコトットコ 2 周ぐらいすると、だんだん明るくなってきて。40 分ぐらいかかったでね。それが終わると、1 時間海軍体操。それが終わって食事。食事が終わって、暗号なら暗号の時間があるわけです。それで、昼はまた食事が終わって 1 時間体操する。1 時間動きっぱなしで結構疲れるんです。夕方もまた 1 時間やるんです。1 日 4 時間ぐらい走ってる。これが海軍通信学校じゃなくて、海軍体操学校だって言うんです。1 日 4 時間ぐらい体操やるんで。教頭が代わったらバタッとやめちゃいまして。そこで半年間しほられました。厳しかったです。失敗すると、解き間違えたりすると、ぶたれはしないんですけどね。運動。校庭 1 周とかって言われて。すぐ駆け足。やはり海軍は駆け足なんです。あと連帯責任。それから食事は「1 分間で食べろ」って。

Y: 1 分間ですか。軍隊は「早飯早糞早なんとか」と言いますけど、あの、ウンコは？

K: それは言わないですね。椅子なんかを置かないで、食事するのに腰掛けられない。立つて食事するんです。あとはカッター訓練。各分隊で競争する。それとね、土曜日になると棒倒し。

《補足》

新井 連合艦隊司令部の通信隊として栗原さんがおられた。それは何人ぐらい？

K: 暗号兵で 100 人ぐらい、電信兵で 100 人位、合計 200 人ぐらい。この間新井（安吉）さんという人が來たんです。あの人が私のあと日吉に來たときは、また別にかまぼこ兵舎に泊まつ

ていたって言う話です。ずいぶん増えたんじゃないでしょうか。

質問者不明 すいません。第一校舎で寝泊まりされていたということだったんですけど、大体第一校舎のどの辺りか覚えてますか？

K: そうですね、ちょうど・・・。第一校舎。これです。ここら辺です。一番端です。南端の1階です。校舎の中のトイレはありました。建物の中の教室の使い方は、半分ぐらいは畳を敷いてあるんです。そこで寝泊まりしてて。100人全員一遍に寝るわけじゃないですから。交代で寝るから。

長谷川 コンクリートの上にじかに畳ですか？

K: そうです。畳を敷いて、コンクリートのとこへ。

長谷川 コンクリートの上へ畳。じゃ、冷たいね。

K: 冬は寒かったです。校舎は電信と暗号とで使って、あとは軍令部の人が使ってたんです。1階でも、2階3階にも居たんです。

山田淑子 軍令部の人もそこは寝泊まり用ですか？

K: さあ、それはよく知らないんです。将校は下宿しているのがいっぱいいました。 (了)

栗原啓二氏のお話(その1)——補足・訂正

115号の記事で補足・訂正すべきことがわかりましたので修正いたします。

①、「一番早く解くのが緊急電報。その次が作戦緊急。」とありましたが、DVDを聴き直したところ、暗号電報を解く緊急度は、緊急電報、作戦緊急電報、保安緊急電報、普通電報の順番と栗原さんは言っていることがわかりました。

②、「カボクと言って下へ敷く麦わらの布団みたいなもの」とあるのは「カポック」に訂正します。百科事典マイペディアによれば、これは熱帯アジア産の木の名前で「種子に生じる長い毛はカポックまたはパンヤとよばれ、浮力が大で、断熱性、弾力性に富むので救命胴衣やクッションなどの詰め物にされる。」ということです。

ガイドから一言

「豊田市下山中学生を迎えて」

長谷川崇(運営委員)

今年も愛知県豊田市から教員・生徒50名が5月13日に2台のバスにて午後12時35分日吉キャンパスに到着しました。下りて来る生徒達の真新しい白のウォーキングシューズと、揃いのブルーのバックが印象的でした。例年2泊3日の修学旅行で3年生の予定に日吉台地下壕の見学があり、都内の施設を見学し横浜中華街を散策して帰校します。

生徒は昼食後、会議室にて45分間のガイダンスの後、今回は地下壕に入れない為地上の見学コース（第一校舎、チャペル、竪穴空気坑、寄宿舎）を見て、その後今回初めての人事局地下壕（小冊子③）3ヶ所の出入口付近を見学し、最後に来往舎横のバルコニーにて見学会のお礼にと私たちに、小池先生のタクトで素晴らしい生徒の二部合唱「童謡、ふるさと」が銀杏並木に響き渡り、予定の午後4時にバスは都心に向けて日吉を後に窓際の生徒たちに旅の安全を祈りつつ、ガイドを終了しました。

尚、後日に38名の生徒より見学会の感想文が届き、この戦争遺跡が見られ当時の有様が良く理解されたと（ガイダンス、地下壕内部の写真）多くの生徒が語っていました。そして多くの人たちにガイドを続けて下さいと励されました。 昨年は「翼をください」の歌唱でした。

「童謡、ふるさと」の歌詞

うさぎ追いし、かのやま
こぶな釣りし、かの川
夢は今も巡りいて
忘れ難きふるさと

志しを果たして
いつの日にか帰らん
山は青きふるさと
水は清きふるさと



下山中学

連載

日吉第一校舎ノート(4) 「田園家塾」の理想

阿久沢武史(運営委員)

林が掲げた「新学園建設」の理想に具体的な形を与えようとしたのは、小林澄兄である。小林は文学部教授として欧米の「新教育運動」を日本に紹介した著名な教育学者であり、すでに幼稚舎と普通部の主任(校長)を歴任、昭和8年(1933)には予科主任となり、日吉初代主任として開校の日を迎えた。

教育学者として、小林はこの新しいキャンパスにどのような命を与える、どのような絵を描こうとしたのか。日吉開校を記念する昭和9年(1934)5月の『三田評論』(第441号)で、自らの理想とする学園のイメージを具体的に語っている。まず『予科第一学年入学志願者心得書』の冒頭の一文、「予科を日吉台の新敷地に移転し此処に完備せる校舎並に寄宿舎を設け運動設備を整へ都塵を離れたる至良の環境の中に理想的な新学園を建設せんとする」を引き、次のように述べる(「日吉予科の始業」)。

日吉予科が樹木に恵まれた十三万坪の広き丘陵に白亜の巨姿を現出し、トラック、テニスコートの新設備も終り、今後更に体育施設の追加されるものがあり、数年を出でずして第二校舎、寄宿舎、講堂等の完備を見るの予定にあるのは、やがて三田本塾が大に面目を一新するのと相俟つて、義塾にとり最も愉快なことであって、これに必然的に伴ふべきものが学事内容の充実でなければならぬことはいふまでもない。

欧米諸国に学園らしき学園の乏しからざるは周知のことにして属する。オックスフォード、ケムブリッジの両大学は固より、我が日吉予科の如きコレヂ程度の学校に於て、近来特に注目されるものに「^{ランドセルチーワングスハイ}田園家塾」なるものがある。私は嘗て英、仏、独に於て、その代表的なるもの数種を視察して得る所が少くなかった。新学校は田園に広き敷地を選び、よき自然の環境の中に学生を起居せしめなければならぬ。そうして家塾的の「労作協同体」を形成しなければならぬ。といふのがこの「田園家塾」運動の根本趣旨に他ならぬのであつて、多くは僻陬の地にこの運動の結実である所の理想的学園の営為を見出すのは、私にとり真に心にくきことであった。

日吉予科主任として晴れの開校の日を迎える、小林が新しいキャンパスに重ねようとした理想的学園のイメージは、ドイツの「田園家塾」であった。

「田園家塾」(「田園教育舎」「田園教育塾」)は、1898年にヘルマン・リーツによって設立された私立学校である。その名が示すように都会から離れた田園に寄宿舎を作り、共同生活を通して青少年に全人的な教育を行う。小林は、大正3年(1914)から6年まで、義塾派遣の留学生としてドイツ・イギリス・フランス・スイスで最新の教育学を学んだ。それはちょうど19世紀末からヨーロッパを中心に展開された教育改革の運動、いわゆる「新教育運動」が国際的な広がりを見せていた時期でもあり、小林はその洗礼を受け、帰国後は日本における新教育の担い手として活躍することとなる。

そもそも新教育運動は、教師主体の画一的・一方向的な従来の教育方法に対する批判から生まれたもので、自主的・主体的な活動を通して一人一人の個性を伸ばそうとする児童中心主義の考え方方が根底にある。「田園家塾」は、その代表的な実践の一つであり、創始者リーツの理想は、次のような言葉に集約される。

肉体と魂において健全で、感受性の豊かな、明晰に思考し、実行力のある青少年が、町から離れた森と山と静けさのなかで育成されるであろう。神と郷土と同胞を愛し、とりわけすぐれたもの、高貴なもの、すべての美しきもの、善きものに喜びを見いだす青年が育成されるであろう。(『新教育学大事典』第5巻「田園教育舎」の項)

都会の喧騒を逃れ、外界と遮断された寄宿舎での共同生活を通して、自然への愛と健全な心身を育み、教科の学習のみならず課外での活動によって自己規律と自治の精神を養う。そのための取り組みとして最も特徴的なのは、訓育の重視と、自然の中で鍬や鋤を使う労働と手

仕事の重視、いわゆる「労作教育」である。

ドイツのケルシェンシュタイナーが主導した「労作教育」は、教師中心・書物中心の教育に対して、子供の能動的で身体的な活動を重視し、教育を生活に密着したものにしようとした試みである。手仕事とはこの場合、動物の飼育や植物の栽培、図画工作や実験などを意味し、学校は「労作共同体」であり、そこでの共同作業を通して、道徳性や社会性を芽生えさせようとした。そして、ドイツ語の *Arbeit* (アルバイト) に「労作」という訳語を与え、全人的な教育として日本に紹介したのが、小林澄兄であった。小林はその代表的著作『労作教育思想史』において、西洋の労作教育思想を網羅的に検証したうえで、労作教育は「全人陶冶」そのものであり、義務心・公正・協力・友愛等の「社会的道徳性」を獲得することができるとする。この『労作教育思想史』は昭和9年に刊行され、ちょうど日吉開設の時期に重なる。初代日吉主任・小林澄兄の教育学者としての学問的関心と教育の理想は、この時期、労作教育思想に集中的に向かっていたことになる。

ただ、日吉の地はドイツ風の「田園家塾」を形成するにはあまりに条件が悪すぎた。「日吉予科の始業」において小林自身が認めているように、「日吉予科の土地柄は田園としては尚浅きに過ぎる憾みがある。その上、風紀上如何はしとの称ある場所も遠くはない」とあるように、郊外とは言え渋谷や横浜の繁華街に近く、しかも温泉地として当時賑わいを見せていた綱島温泉は徒歩圏にある。小林がイメージした理想的な田園の風景とはかなりの距離があるものの、義塾には福澤以来の「一種微妙なる氣品の内に充満する」塾風があり、「学問と人事とを併せ学ぶ『労作共同体』が立派に成長し来つた」のであるから、日吉予科もこれを継承し、「新学園実現への第一歩を踏み出すこと必ずしも至難ならず」と言う。そして、「義塾教育のルネサンス到来に加勢するに足る熱意ある努力を固く約束したいものである」という情熱的な言葉で、この文章を結ぶのである。

日吉開校の1年後、『三田評論』昭和10年(1935)4月号(第452号)で、小林は「日吉予科の一ヶ年を回顧して」という文章を発表している。それは文字通り開校以来の1年を振り返った内容であるが、そこでドイツの学校の「^{クラブ}専門団体」運動を紹介しつつ、学生主体による課外活動の必要性を説いている。

要するにそれは、学生同士が従来のやうにただ受身的に教授されるを俟たずして、民族社会への奉仕生活を用意する青年運動として、学校内又は大学内に、各自専門研究のグループを組織し、多種多様の研究活動をその団体のみの手によつて遂行すべく盛んに企画しつつある、その団体運動を称してファハシャフトといふのである。

そして、「趣味的にも、体育的にも、また学問的にも、凡て学生の手によつて課外活動なるものの大に起り来るといふことが、洵に現下の急務であるとさへ私には考へられるのである。」と述べ、「日吉予科は地理的に独立してゐる」から、「世間のモノトナスな高等学校型に陥る」ことのないよう、注意を喚起している。

ここに明らかなように、小林が理想とした「学園」のイメージは、弊衣破帽で蛮カラを良しとする旧制高校、およびその寮の気風(いわゆる「ストーム」など)で象徴される従来型の学校文化ではなく、規律と自治の精神にあふれ、学問のみならず課外活動を通して知・体・徳のバランスのとれた人格を育成する全人教育にあった。ドイツの「田園家塾」は、日吉開校一年後もなお小林の描く理想として、具体的なイメージを重ねられていたのである。

都心を離れた郊外の地で、知育・体育・德育の三つの領域にわたって全人格的な教育を行う。知育を担う場は、言うまでもなく第一校舎であり、体育は陸上競技場、そして德育には寄宿舎が重要な役割を果たす。日吉開設の日、陸上競技場はすでに完成し、その他の体育施設も順次完成に向かっていた。谷口吉郎設計による「東洋一」の寄宿舎が、最新式の設備を整えたモダンな三棟の建物として完成するのは、昭和12年(1937)のことである。

このように、小林の「田園家塾」の理想は、寄宿舎の竣工をもって不完全ながらも形を整えるに至った。日本における、より純粹な形での「田園家塾」は、小原国芳が昭和4年(1929)に開いた玉川学園であり、そこでは現在もなお全人教育を目的とする労作が実践されている。

小林は、大正8年（1919）から昭和8年（1933）にかけての幼稚舎と普通部の主任時代に、それぞれ「手工科」を設置しており（『慶應義塾史事典』）、これは日本で最も早い労作教育の実践例である。普通部では今もなお「労作展覧会」（労作展）が毎年9月に行われ、小林の唱えた労作教育の理想と新教育運動の伝統が脈々と受け継がれているのである。

連載

地下壕設備アレコレ【11】なぞの管制線と整流器

運営委員 山田譲

連載9回目「送信機」の時、日吉から船橋送信所など遠くの送信所を動かすために「管制線」が使われたという中島親孝氏（連合艦隊情報参謀として日吉で勤務）の回想記の記述を紹介しました。この「管制線」は通信ケーブルらしいのですが、それ以上よくわからないと書きました。また連載3回目「バッテリー、トランス、交流直流変換機」で、「通信機やバッテリーは直流なので交流直流変換機も必要」と書きました。これについて新しい資料を見つけ、私の疑問が解けたので今回はそのお話を。

『元軍令部通信課長の回想——日本海軍通信、電波関係活躍の跡——』鮫島素直著（昭和56年刊）というのがその資料です。それによると〈送信管制線〉として「管制線は飛行場、受信所、送信所付近は地下ケーブルを布設し、そのほかは架空ケーブルを使用した。空襲によって管制線が切断されることが多くなってからは、地下式がよいか架空式がよいかで議論された。被害局限の上からは架空式が不利なことは言うまでもないが、一旦被害を受けた場合埋没式は修理に手間と時間がかかるというので、低い架空式や溝に入れたままで埋戻しをしない方法などを採用したところも多かった。……布設工事は工作庁でやらせるのを立前としていたが、工員の出張してくるのが間に合わず部隊の兵力で布設したものもあった。……無線管制も一部に使用したが、その実用成果を見ずに終わった。」と書かれています。「架空式」とは電柱にケーブルを架設することです。

これでいくと日吉と船橋、あるいは戸塚、藤沢市六会の送信所まで、電話局の電話線でなく専用の通信ケーブルを「送信管制線」として敷設したことになります。これは当然、大変な工事です。しかしそれを当たり前のようにやっていたということですから、何が何でも軍事最優先で予算も無制限につぎこんで、戦争遂行に国の総力をかたむけていたということだろうと思います。

また〈電源〉の項には「送信所、受信所の一次電源は部外電力を利用できる場合はこれを常用とし、応急用としてディーゼル交流発電機を使用した。昭和十八年はじめまでに建設されたところでは、このほかに蓄電池および可逆電動発電機を装備した。……従来2キロワット以上の送信機電源には整流器を使用し、艦船用を流用していたそれ以下の送信機電源は電動直流発電機であったが、一次電源に対する整備方針の変更とともに全部整流器を使用することとなった。しかし、水銀整流管を使う整流器は、整流管の生産不足のため、しばしば補給困難におちいった。受信機電源は、常用は交流として整流器と変圧器を用い、応急用として大型蓄電池を用いるのが例であった。」と書かれています。

整流器というのは、交流電流（電力会社の供給する電気は交流です）を直流に変換する機器です。受信機の電源は直流の6ボルトと220ボルトが必要です。交流では動きません。この直流への変換は、交流モーターで直流発電機を回す「電動直流発電機」（「可逆電動発電機」と書かれているものも同じです）でやっていたと私は思っていました。しかし大電力を供給できる水銀整流管を使った整流器があったことを初めて知りました。日吉の地下壕の整流器機がどちらのタイプだったのかは、わかつていません。「機械室」と言われている部屋には、電動直流発電機の土台に相当するような8本ボルトの細長い台座が残されています。しかしそれがそうだと断定することはできません。ただこの本で、地下壕内に変圧器と整流器機があったにちがいないことは、はつきりしたと思います。

★活動の記録 2014年5月～6月

- 5／2 会報115号発送（慶應高校物理教室）
 5／5 ガイド学習会（菊名フラット）
 5／8 平和のための戦争展示会実行委員会（かながわ県民ホールセンター）
 5／10 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座（来往舎大会議室）
 5／13 地下壕見学会 愛知県豊田市立下山中学校3年生 50名（地上部の見学）
 5／15 平和のための戦争展示会実行委員会（かながわ県民ホールセンター）
 5／19 運営委員会（来往舎205号室）
 5／21 地下壕見学会 慶應大学OB 15名（地上部の見学）
 5／23 戦争遺跡保存全国ネットワーク神奈川県川崎大会打ち合わせ（明治大学生田キャンパス）
 5／24 地下壕見学会ガイド実習（定例見学会は中止・地上部のみ・パルシステム取材）
 5／30～6／1 第19回平和のための戦争展示会実行委員会（かながわ県民ホールセンター）
 6／7 第26回総会（来往舎大会議室）
 記念講演 『近代都市の形成と軍隊一横浜・横須賀を中心に』
 上山和雄氏（横浜市文化財保護審議会委員）
 6／14 日吉の戦争遺跡ガイド養成講座（来往舎小会議室）
 6／17 地下壕見学会 神奈川県立大師高校1年生 16名（地上部の見学）
 6／19 戦争遺跡保存全国ネットワーク神奈川県川崎大会実行委員会（法政第二高校）
 6／23 運営委員会（来往舎205号室）
 6／28 地下壕見学再開にあたって点検作業（定例見学会は中止）
 ☆ 7月から通常の見学会を再開します
 予定
 7／7 会報116号発送作業（慶應高校物理教室）

★地下壕見学会

- ・定例見学会 7／26（土）13時～締切ました・8／30・9／27・10／25
 - ・夏休み見学会 8／2（土）13時～・8／6（水）9時半～、13時半～
 - ・全国大会フィールドワーク 8／18（月）9時～、13時～
- 以上の日程の申し込みを受け付けています

☆地下壕見学会は予約申込が必要です。

お問い合わせは見学会窓口まで TEL 045-562-0443（喜田 午前・夜間）

連絡先(会計)亀岡敦子:〒223-0064 横浜市港北区下田町5-20-15 TEL 045-561-2758

(見学会・その他)喜田美登里:横浜市港北区下田町2-1-33 TEL 045-562-0443

ホームページ・アドレス：<http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報

(年会費) 一口千円以上

発行 日吉台地下壕保存の会

郵便振込口座番号 00250-2-74921

代表 大西章

(加入者名) 日吉台地下壕保存の会

日吉台地下壕保存の会運営委員会